

## 自然観察カードの作成にあたって

菅野 澄\*

### 1. はじめに

1983年3月20日、青少年科学館本館展示室が一般に公開される運びとなった。

そこで、その時折の緑地内の季節の見どころを記した「自然観察カード」を毎月作成し、科学館を訪れた人々がこのカードを片手に、館内の展示と館外の本物の自然とを直接結びつけるために設けられた緑地内の2本の自然観察路をたどることによって自然学習が深められるように、展示室内に常備することにした。

### 2. カードの内容について

毎月作成された「自然観察カード」の内容について順を追って記してみる。

#### No. 1 すみれの観察 3月19日

すみれの花は、日本人ならば誰でも知っている春を代表する花である。しかし個々の種名を言い当てることのできる人は少ないであろう。そこで緑地内で見られるスマレ7種について同定のポイントと種名の謂れについて解説した。

#### No. 2 葉の形 5月1日

植物に親しむとき手放せないのが植物図鑑である。図鑑にはむずかしい術語が使われている。これを小学校の児童にもわかるように単葉、複葉の形、葉のさげ方、葉のふちの形等を図説した。

#### No. 3 つる植物 6月1日

この時期はつる植物の成長期で、観察するには絶好である。つるの巻きつきの型、右巻きのもの、左巻きのもの、巻きひげ等について観察のポイントを示した。

#### No. 4 花と虫 7月1日

こん虫の動きが目立つようになる。光と受粉の仲だちをするこん虫との関係やこん虫の仲だちを必要としない花の紹介、単性花と両性花のつくり

や雌雄同株、雌雄異株について取り上げた。

#### No. 5 帰化植物 8月1日

帰化植物の種類は自然度を測る尺度とされている。近年川崎市内で多く見られる帰化植物を紹介しながら、帰化植物の伝播、繁殖について解説した。

#### No. 6 秋の七草 9月1日

万葉集に詠まれた秋の七草を紹介し、身近なところで咲いている秋の植物の中から、自分の好きな七草を選んでみるように指示した。

#### No. 7 たねの散り方 10月1日

仲間を増やすということから、遠くへ運ばれるために実やたねにはどんな仕組みがかくされているかを図説した。

#### No. 8 もみじ 11月1日

野山の木々が色づく時期である。紅葉するもの、黄葉するもの等さまざまである。これらの仕組みと落葉との関係について解説した。

#### No. 9 生き物の冬ごし 12月1日

生き物にとって厳しい時期である。植物やこん虫たちがどんな姿で冬を越そうとしているかを解説した。

#### No. 10 野鳥の観察 1月5日

大部分の樹木は葉を落とし、枝から枝へ飛びまわる野鳥の姿がよく目立つ。緑地で見られる野鳥の紹介とこれらを留鳥、標鳥、夏鳥、冬鳥等に分けてみた。

#### No. 11 春を見つけよう 2月1日

立春を過ぎてまだまだ寒い日が続くが、植物やこん虫の中には、早くも姿を見せ始めるものがある。これら早春の花やこん虫を紹介した。

#### No. 12 春に見られるこん虫 3月1日

春を告げるオオイヌノフグリが可憐な瑠璃色の花をつけ始める。オオイヌノフグリに集まるアリマキとそれを食するナナホシテントウ、花の蜜を

\*川崎市立玉川小学校教諭  
川崎市青少年科学館教科指導員

求めるミツバチやハナアブの類を紹介した。  
カードの一部を資料とし末尾に掲載した。

### 3. 反省と今後の課題

この1年をふり返ってみて次のような反省点を挙げる事ができる。

- 小学校高学年の児童にも理解できる内容のものであったか。また適切な表現がなされてい

たか。

- 図版や写真は鮮明且つ正確であったか。
  - 内容が植物に片寄り過ぎたのではないか。
- 等々である。また今年は例年のない厳冬に見舞われ、№11・№12で意図した内容が活かされなかったのが残念である。以上のことを踏まえて、より良いカードづくりに専念したい。

## 自然観察カード No. 3 川崎市青少年科学館 1993. 1. 1

木の森も注意深く観察すると いろいろな「つる植物」があることにおどろかされます。

生田緑地の観察路では どんな「つる植物」が見られるでしょうか？

1. 付着根があるもの  
○ 吸根があるもの



フユツタ (ヘツタ)

### 「つる植物」

○ 多くのものは日光を好み林の縁に生れしますがフユツタのように日光を好まず林内に育つものがあります。

○ 松木と共にマントリイバラをつくり森林を保護しています。

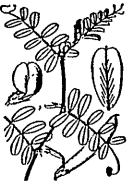
○ ヤブガラシ・クズなどのように繁殖しやすいのでからみついた植物を枯れさせてしまうこともあります。

- 吸根があるもの



ナンゾツ

2. 葉をひげて花をつくもの  
○ 小葉が変化したもの



カラスノエンドウ



ナルトリイバラ

- 葉が変化したもの

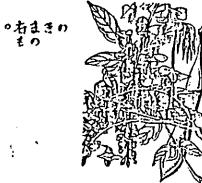


ヤブガラシ

3. 葉で花をつくもの  
○ 花まきもの



ヒルガオ



フジ (ノダフジ)

- 葉でないもの (花まきが青い)



スイカズラ

4. 茎にとげがあるもの  
○ 逆とげがあるもの



ヤエムグラ



ツルグミ

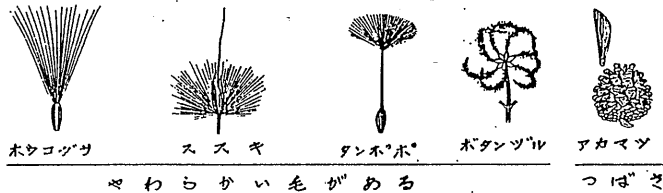
- 茎にとげがあるもの



カマキズラ

「種子の散り方」 花が散ったあとに、実や種子ができます。もしすべての種子が親の木や草の元に落ちて、1か所からたくさん芽を出すと、どうなるでしょうか。日光や養分が不足して成長することができなくなってしまう。これをさけるために、実や種子はできるだけ遠くへ散るよううまいしかりをもっているのです。観察路を歩きながら調べてみましょう。

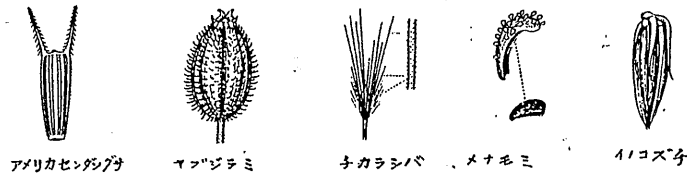
1. 風で運ばれるもの



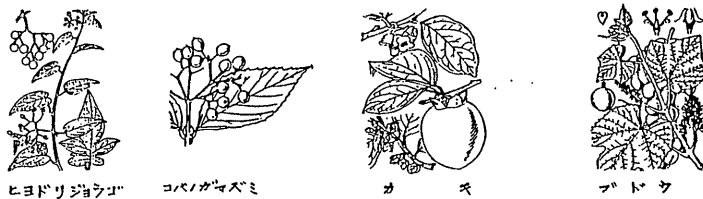
2. 水で運ばれるもの



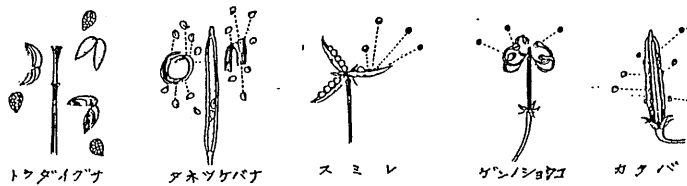
3. 人や動物の体について運ばれるもの



4. 人や動物に食べられて運ばれるもの



5. 実がはじける勢いで飛ばされるもの



6. 実がきけると自然に下に落ちるもの

